

授業実践 【小学校第 2 学年 算数科】

「説明の工夫」や「環境の工夫」の支援の充実に向けた授業づくり

1 1 学期の授業の実際〔单元「100 より大きい数をしらべよう」(『3 けたの数』東京書籍 2 年上)〕

(1) これまでの授業づくりにおける支援の傾向と児童の実態

これまでの授業づくりの傾向をチェックシートの結果から見ると、「組立ての工夫」のポイントが高く、それに比べると「環境の工夫」「説明の工夫」「個人差への配慮」のポイントが低いことが明らかになった。

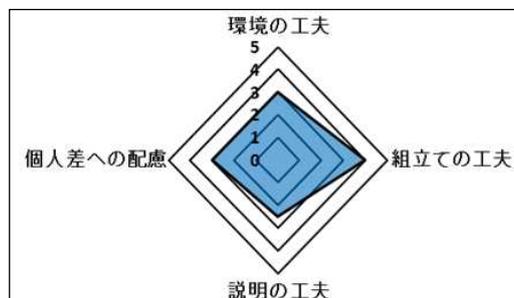


図 1 これまでの授業づくりにおける支援の傾向

該当学級の児童は、友達に自分の考えを積極的に伝えたり、全体場で活発に意見を述べたりするなど、意欲的に学習に取り組むことが多い。しかし、説明された内容を把握するまでに時間が掛かったり、最後まで説明を聞く前に活動を始めたりする児童が見られ、

注意を持続させて活動に取り組むことには課題がある。そこで、本单元では、これまでの授業づくりにおける支援の傾向及び児童の実態を踏まえて、以下のような主な支援を取り入れた。

【環境の工夫】

- ・児童に考えさせるときの手掛かりとするために、既習事項を教室の横に掲示する。

【組立ての工夫】

- ・注意が持続しやすいように、個人活動、ペアや全体での話し合いなど様々な学習活動を取り入れる。
- ・本時の学習課題を振り返らせやすくするために、振り返りを書く時間を設定する。

【説明の工夫】

- ・「1つ目は」「2つ目は」と話す内容を整理し、順序立てて伝える。
- ・ペアの話し合いのときに言葉を考えやすいように、電子黒板に話型を提示する。
- ・児童の考えが伝わりやすくなるように、児童が記述したワークシートを電子黒板に提示する。

【個人差への配慮】

- ・自分の考えを書くことが難しい児童には、数の仕組みを理解しやすいように、図を使ったヒントカードを渡す。
- ・文章を書くことが苦手な児童には、児童の実態に合わせて書かせる量を調整する。

(2) 1 学期の授業の概要(6 月実施)

ア 本時の目標

- 1000 までの数の多様な見方について考え、説明することができる。

イ 本時の展開 (環 環境の工夫 組 組立ての工夫 説 説明の工夫 ◎ 個人差への配慮)

学 習 活 動	「ユニバーサルデザイン」の視点による支援
[授業前]	環 児童が考えるときの手掛かりとするために、既習事項を教室の横に掲示する。
1 数直線を提示し、本時の学習課題を確認する。	説 興味をもたせるために、1000 までの数直線を、巻物を広げるように提示する。
	学習課題 780 のひみつについて説明しよう

<p>2 数直線の見盛りを読む。</p>	<p>説数直線の1目盛りの大きさが分かるように、児童と一緒に声を出しながら数直線の見盛りを数える。 組本時の学習の見通しをもつことができるように、学習活動の流れを提示する。</p>
<p>3 個人で考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>前時で扱った 算数のたからばこ</p> <p>52は 50と2を合わせた数 52は 60より8小さい数 52は 50より2大きい数 52は 10を5つと1を2つ集めた数</p> </div> <p>4 ペアで説明し合う。 5 全体で考えを共有する。</p>	<p>説学習の取り組み方が分かるように「1つ目は」「2つ目は」と話す内容を整理し、順序立てて伝える。 組注意が持続しやすいように、個人活動、ペアや全体での話し合いなど様々な学習活動を取り入れる。 説書くときの手掛かりとするために、前時で用いた「算数のたからばこ」を黒板に提示しながら説明する。 ◎自分の考えを書くことが難しい児童には、数の仕組みを理解しやすいように図を使ったヒントカードを渡す。 ◎文章を書くことが苦手な児童には、児童の実態に合わせて、書かせる量を調整する。</p> <p>説ペアで説明し合うときに言葉を考えやすいように、電子黒板に話型を提示する。 説児童の考えが伝わりやすくするために、児童が記述したワークシートを電子黒板に提示する。</p>
<p>6 本時を振り返る。</p>	<p>説本時の振り返りをしやすくするために、「振り返りのポイント」を黒板に提示する。</p>

(3) 児童アンケートや授業者アンケートを基にした1学期の授業評価

「ユニバーサルデザイン」の4つの視点に応じた支援を取り入れた授業づくりについて、児童アンケートの振り返りの記述には、多くの児童が「分かりやすかった」と肯定的に述べている。「説明の工夫」に関する支援として取り入れた「算数のたからばこ」や「個人差への配慮」を要する児童への支援として取り入れたヒントカードが、児童の学習内容の理解を促したと考える（資料1：実線部）。一方で、ペアで話すときに説明の仕方が分からなかった児童もいたことがうかがえる（資料1：波線部）。

また、授業者アンケートの記述から「算数のたからばこ」がワークシートに記入するときに有効であったことを授業者が実感したことがうかがえる（資料2：実線部）。しかし、授業者が学級や児童の実態を踏まえて「説明の工夫」や「環境の工夫」の視点に応じた支援を授業に取り入れたいと考えていることがうかがえる（資料2：波線部）。

・自分で考えるときに「算数のたからばこ」があったので、説明が書きやすかった。
 ◎分からなかったときに、先生からヒントをもらえてよかった。分かりやすくなった(◎は「個人差への配慮」を要する児童の記述)。
 ・ペアで話すとき、どのように説明したらよいか分からなかった。

資料1 授業の振り返りの記述の例

・「算数のたからばこ」を提示したことで、ワークシートに記述できた児童がいた。
 ・話を聞くことや発表する際のルールを提示し継続的に指導した(「環境の工夫」に関する記述)。
 ・説明する際は、児童の実態を把握した上で具体物や電子黒板の準備をするように気を付ける(「説明の工夫」に関する記述)。
 ・個別に対応すべき人数が多く、支援も不十分であった(「個人差への配慮」に関する記述)。

資料2 授業者アンケートの主な記述

(4) 次回の授業に向けた支援の検討

前回の授業の成果と課題をまとめた上で、課題を基に次回の授業に取り入れたい支援を検討した。授業者が改善する必要があると感じていた「説明の工夫」「環境の工夫」の視点に応じた支援を取り入れることを確認して、次回の授業の準備に取り組んだ（次頁参照）。

授業後の成果と課題及び新たに取り入れたい支援

視点	取り入れた支援	成果(○)と課題(●)	新たに取り入れたい支援
環境の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に考えさせるときの手掛かりとするために、既習事項を教室の横に掲示する。 ・前面の掲示物は必要なものだけにする。 ・授業が始まるときに、座って背筋を伸ばして待つ姿勢のルールを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業が始まるまでに、全ての児童が着席し、静かな雰囲気での授業が始めることができた。 ●本時で使用しない学習用具を、机に出している児童がいた。 ●教師の説明や友達の発表のとき、私語をする児童が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に使う学習用具を黒板に掲示して伝える。 ・発表を聞くときのルールを決めて掲示する。
組立ての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・個人活動、ペアや全体での話し合いなど様々な学習形態を取り入れる。 ・本時の学習課題を振り返らせやすくするために、振り返りを書かせる時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りでは、ほとんどの児童が、自分の考えを書くことができた。 ●学習内容を理解することができずに、活動に参加できない児童がいた。 ●意見交流が早く終わった後に、何をすればよいか分らずに戸惑う児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の見通しをもたせるために、導入で学習の流れを掲示したり、課題が終わった後の過ごし方を伝えたりする。
説明の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「1つ目は」「2つ目は」と話す内容を整理し、順序立てて伝える。 ・児童のワークシートを電子黒板に提示しながら伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童は「算数のたからばこ」を手掛かりにして、ワークシートに書くことができていた。 ●教師の声が小さかったり、児童の活動中に指示をしたりしていたため、指示した内容が伝わっていない場面があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に十分に聞こえる声の大きさと話したり、具体的な言葉を使ったりして説明する。 ・児童が静かになったときや活動を終えてから指示や説明をする。
個人差への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書くことが難しい児童には、数の仕組みを理解しやすいように図を使ったヒントカードを渡す。 ・書くことが苦手な児童に、個人の実態に合わせて書かせる量を調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒントカードを渡したり、個別に言葉を掛けたりすることで活動を進めることができた。 ●一人で考えをまとめて話すことができずに、意見交流がうまくできていないペアがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの手順表を準備しておく。 ・児童の実態に応じた補助教材を用意する。

2 2学期の授業の実際〔単元「形をしらべよう」(『長方形と正方形』東京書籍2年上)〕

(1) 2学期の授業づくりにおける支援の傾向と児童の実態

実践授業までの授業づくりの傾向をチェックシートの結果から見ると、「環境の工夫」と「組立ての工夫」のポイントが高く、それらに比べて「説明の工夫」と「個人差への配慮」のポイントが低い(図2)。

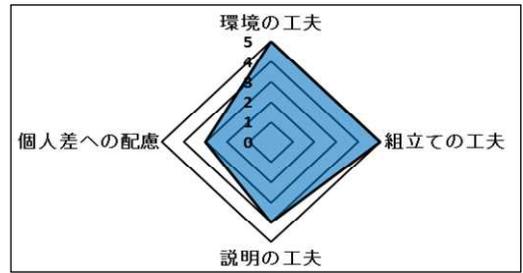


図2 実践授業までの授業づくりにおける支援の傾向

該当学級には活発な児童が多く、自分の考えを進んで発表したり、問題の解き方が分からない友達に解き方を教えたりする姿がよく見られる。一方、全体の場で発表することが苦手な児童や、自分の考えを友達に伝えることが苦手な児童もいる。また、教師の話の聞いただけでは、活動の見通しをもつことが難しく、活動に取り組むまでに時間が掛かる児童も見られる。

そこで、本単元では、前回の授業の成果と課題を基に考えた支援及びこれまでの授業づくりにおける支援の傾向、さらに、児童の実態を踏まえて、以下のような主な支援を取り入れた。

【環境の工夫】

- ・児童が授業中にいつでも確認できるように、発表を聞くときのルールを決めて掲示する。
- ・児童が注意を持続しやすいように、教師の方を注目させる合図を決めておく。

【組立ての工夫】

- ・体を使った表現や調べる活動を取り入れる。
- ・1つの学習活動を10～15分ごとに短く区切る。

【説明の工夫】

- ・説明や指示をするときは、できるだけ具体的な言葉を使う。
- ・説明や指示の内容を再確認できるように、電子黒板に提示する。

【個人差への配慮】

- ・指先を使う作業が苦手な児童に、作業がしやすいように、補助教材を用意し、必要に応じて渡す。
- ・注意の持続が難しく最後まで仕上げることが苦手な児童に、教師が作った教材を渡す。

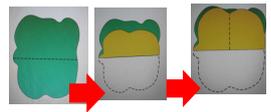
(2) 2学期の授業の概要(10月実施)

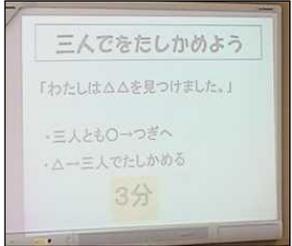
ア 本時の目標

○直角の意味を知り、身の回りから直角を見付けることができる。

イ 本時の展開 (環 環境の工夫 組 組立ての工夫 説 説明の工夫 ◎ 個人差への配慮)

学習活動	「ユニバーサルデザイン」の視点による支援	取組の様子
[授業前] 	環 児童が授業中にいつでも確認できるように、発表を聞くときのルールを決めて掲示する。 環 児童が注意を持続しやすいように、教師の方を注目させる合図を決めておく。 環 始業の合図で授業が始められるように、休み時間の間に次の授業の準備をさせる。	静かな雰囲気 で授業を始められるように、 学習のルールを継続して指導しています。 
1 本時の学習内容を知る。	学習課題 教科書やノートの角と同じ形を調べよう	

<p>学習のながれ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①めあて ②見とおす ③しらべる ④つたえあう ⑤まとめ 	<p>説 児童が学習課題に注目しやすくなるように、電子黒板に教科書を提示して、四角形の角に注目させる。</p> <p>組 児童が授業の見通しをもつことができるように、学習活動の流れを示す。</p>	<p>今日は、角について調べたり、伝え合ったりするのね。</p> 
<p>2 折り紙で教科書やノートの角と同じ形をつくる。</p>  <p>角の作り方</p>	<p>説 児童が紙を折る手順が確認できるように、折り方を電子黒板に提示する。</p> <p>◎細かい作業が苦手な児童が、角をそろえて折ることができるように、折り目にマーカーで線を引いて渡す。</p> 	<p>電子黒板のようにすれば、角の形を折ることができるね。</p> 
<p>3 作った角の形の「直角」の意味を知る。</p> <p>直角とは おり紙を半分においてできた、角の形を「直角」という</p> 	<p>説 直角を確認しやすくなるように、できた直角に赤丸を付けさせる。</p> <p>◎注意の持続が苦手な児童に、教師が折った折り紙を渡す。</p> <p>説 教科書やノートと同じ角の形ができたことを確認するために、グループで見せ合う。</p> <p>組 児童が直角をイメージしやすいように、言葉だけでなく、体も使いながら直角の形を両腕で表現する。</p> 	<p>マーカーの線があったから、僕も折りやすかったよ。</p>  <p>電子黒板に図で折り方を示していたから、みんなが折り紙で直角を作ることができました。</p> 
<p>4 教室の中にある直角を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想を立てる。 ・教室の中にある直角を探す。 	<p>組 身の回りには多くの直角があることに気付くために、教室内のものの形から直角を見付けさせる。</p> <p>組 教室にあるものから直角のある場所を予想させてノートに書かせる。</p>  <p>組 活動の見通しをもたせるためにタイマーをセットする。</p>	<p>直角はカクッとした感じね。</p>  <p>教室の中には直角がたくさんありそうね。</p> 

 <p>・見つけた直角をグループ内で確認する。</p>  <p>三人でたしかめよう 「わたしは△△を見つけました。」 ・三人とも〇一つぎへ ・△→三人でたしかめる 3分</p> <p>・グループで見つけた直角がどこにあるかを全体で共有する。</p> 	<p>説 直角の確かめ方が分かりやすくなるように、児童を指名して直角を両腕で実演させる。</p> <p>◎一人で直角を見付けることが難しい児童に、グループの児童と一緒に直角を調べるように促す。</p> <p>説 話し合いの進め方のルールを確認するために、電子黒板に進め方を提示する。</p> <p>組 見つけた直角を確認させるために、グループ内で交互に見つけた直角の場所を伝え合わせる。</p> <p>◎話すことが苦手な児童が、自信をもって発表できるように、ワークシートの記述を称賛する。</p> <p>説 見つけた教室内の直角が他の児童に伝わりやすいように、発表する児童には、見つけた直角の場所に移動して発表させる。</p> <p>組 児童が発表した直角を実際に確認する時間を設けて、共有させる。</p> 	<p>直角の形を体で表現したり、折り紙の角を直角に合わせたりしながら、直角の言葉と形を結び付けることができています。</p>  <p>電子黒板に書いてあるように言えばいいのね。</p>  <p>児童が見つけた場所に見つけた場所に移動して発表したので、床板など教室内にある直角を更に見つけようとする児童の姿が見られました。</p>  <p>友達が見つけた直角を確かめるのね。本当だ。こんな所にも直角があった。</p> 
<p>5 本時を振り返る。</p> <p>今日のふりかえり おり紙を半分においてできた、角の形を  という</p>	<p>組 児童が学習内容を確認できるように、直角の定義と感想を書かせる。</p> <p>◎書くことが苦手な児童が、振り返りを書きやすいように、ワークシートの空欄のみに言葉を書かせる。</p> <p>組 次時の学習の見通しをもたせて、本時の学習活動を次時につなげる。</p>	<p>直角をたくさん見つけて、友達に伝えることができたよ。</p> 

(3) 児童アンケートや授業者アンケートを基にした 2 学期の授業評価

「ユニバーサルデザイン」の 4 つの視点に応じた支援を取り入れた授業づくりについて、児童アンケートの振り返りの記述から、多くの児童が肯定的な感想を述べている（資料 3）。今回の授業では「環境の工夫」の支援の「児童が注意を持続しやすいように、教師の方を注目させる合図を決める」ことを主な支援として取り入れた。さらに、「説明の工夫」の支援の「説明を端的に行う」「児童の注意を向けてから指示や説明をする」ことも取り入れた。授業者が、聞くルールを提示して、児童が活動を止め注目してから、話したり説明したりしたことで、児童は活動内容を把握しやすくなっただけでなく活動への意欲的な取組につながったと考える（資料 3：実線部）。

また、授業者アンケートの記述には、授業者が児童に活動する内容が伝わりやすくなるような支援に取り組んだことが分かる（資料 4：二重線部）。しかし、個別に配慮を要する児童の支援については、支援の改善を行っているものの、授業者が更なる支援の改善の必要性を感じている（資料 4：波線部）。

(4) 次回の授業に向けた支援の検討

今回の授業の成果と課題をまとめた上で、次回の授業に新たに取り入れたい支援を検討した（次頁参照）。授業者が継続して支援を取り入れる必要があると感じた「個人差への配慮」の視点の支援の充実に向け、次回の授業の準備につなげた。

- ・折り紙で、調べに行ったから分かった。
- ・直角の形を、腕を使ってしたことが分かりやすかった。
- ・電子黒板に書いてあったからよかった。
- ・もつと調べたかった。
- ・ノートに直角のものがたくさん書けたのでよかった。
- ・折り紙を重ねて直角が分かった。
- ・ペアで話したので別の直角が分かってよかった。

資料 3 児童アンケートの授業の振り返りの記述の例

- ・話型や聴く姿勢を示した（環境の工夫に関する記述）。
- ・聴くだけでなく体を使う活動を入れた（「組立ての工夫」に関する記述）。
- ・短い言葉で指示をすることや視覚的に示すことを意識した（「説明の工夫」に関する記述）。
- ・正しく折った直角の折り紙を渡すことができるように準備した（「個人差への配慮」に関する記述）。
- ・児童全員に目を向け聞かせる工夫、興味をもたせる工夫を考えたい。

資料 4 授業者アンケートの記述

授業後の成果と課題及び新たに取り入れたい支援

視点	取り入れた支援	成果(○)と課題(●)	新たに取り入れたい支援
環境の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に使う学習用具を黒板に掲示して伝える。 発表を聞く時のルールを決めて掲示する。 教師の方を注目させる合図を決めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業前に必要なものだけを机の上に準備できた。 ○聞く姿勢を提示することで、姿勢を正すことができ、教師の指示を静かに聞くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く姿勢や発表のルールを継続的に提示する。
組立ての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・体を使った表現や調べる活動を取り入れる。 ・学習活動を 10～15 分ごとに短く区切る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合い言葉を言ったり、両腕で直角を表したりして、直角の定義を理解することができた。 ○様々な学習活動を取り入れていたので注意の持続ができていた。 ○グループで活動する内容を電子黒板に提示したことで時間いっぱい活動できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く活動、書く活動、読む活動など様々な学習活動を取り入れる。 ・操作活動や体験的な学習を取り入れる。
説明の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・説明や指示をするときは、できるだけ具体的な言葉を使う。 ・説明や指示の内容を電子黒板に提示して、再確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○静かになってから、説明することで全員が教師に注目し指示を聞くことができた。 ○電子黒板に説明や指示の内容を提示することで児童が進んで活動できた。 ○指示を簡潔にしたことで、すぐに活動に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板や黒板を使い分けるなど、児童に学習内容が伝わりやすくする。 ・説明や指示は、児童が活動に取り組む前に簡潔に伝える。
個人差への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・指先を使う作業が苦手な児童に、作業がしやすいように、補助教材を用意し必要に応じて渡す。 ・注意の持続が難しく最後まで仕上げることが苦手な児童に、教師が作った教材を渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が直角に折っていた折り紙を渡すことで活動に参加できた。 ●注意の持続が難しい児童の中には、教師の言葉だけでは、学習内容を理解できにくく、参加することができていない児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の指示を視覚的に伝えたり、操作活動など体験的な活動を取り入れたりする。 ・児童の実態を把握して、児童の得意なことを学習内容に取り入れることで安心して学習活動に取り組ませる。

3 本研究の成果と課題

(1) 成果

○チェックシートの継続的な使用及び児童、授業者アンケートを基にした授業改善を図ることで、児童にとって学びやすい授業づくりにつながることができた。1学期の授業では、チェックシートの結果から「説明の工夫」「環境の工夫」「個人差への配慮」の視点を重点的に行った。しかし、教師の指示の出し方が曖昧であったり、話を聞くことや発表のときのルールが明確に提示されていなかったりしていたため、教師の指示が児童に伝わらないことがあった。そこで、2学期の授業では話を聞くときや発表するときのルールを決めることや説明や指示の言葉を端的にしたり、説明や指示の内容を電子黒板に提示したりして、学習内容が児童に伝わりやすくする支援を取り入れた。その結果、児童アンケートの「説明が電子黒板にあったので分かりやすかった」の問いに児童が肯定的な回答をしている(図3)。また、授業参観者アンケートの記述では、授業者が聞くルールの指導を継続したことや指示の出し方、説明の提示の仕方に工夫をしていたことを評価していることが分かる(資料5：実線部)。

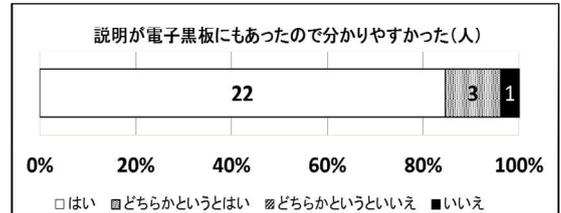


図3 児童アンケートの結果(2学期)

- ・学級の児童が聞くルールを守ろうとする雰囲気であった。
- ・話型が提示されて、児童が言いやすそうであった。
- ・聴く、話す、書く、探す等様々な活動があり、児童が飽きずに取り組んでいた。
- ・簡潔な言葉で指示が出されていたと同時に、電子黒板で視覚的にも提示されていた。

資料5 授業参観者アンケートの記述の例

このことから、チェックシートを継続的に使用することで、児童にとって学びやすい授業づくりにつながったと考える。

○「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた支援をどのように取り入れるかを考える中で、授業者の授業づくりにおける意識の変化につながった。1、2学期のチェックシートの結果を比較すると、3つの視点において意識が高まっている(図4)。



図4 支援の視点を入れた後の授業づくりの傾向の変化

2学期の授業を終えての授業者の感想では、チェックシートを継続的に使用することで、授業者はこれまでの授業実践への課題に気付く、今後の授業づくりの方向性を述べている(資料6)。このことから、授業者がチェックシートを継続的に使用することで、「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業づくりを意識することができたと考えられる。

チェックシートで「ユニバーサルデザイン」の視点の支援例を確認しながら支援を考えることができた。そうすることで、指示の出し方や電子黒板での提示の仕方に気を付けたり、説明と活動の時間を分けて話したり、聞くだけでなく体を使う活動を取り入れたりした。今後、全ての子供たちが参加できる支援を考えたい。また、活動のやる気を出させたり興味をもたせたりする支援が必要であると感じた。

資料6 2学期の授業を終えての授業者の感想

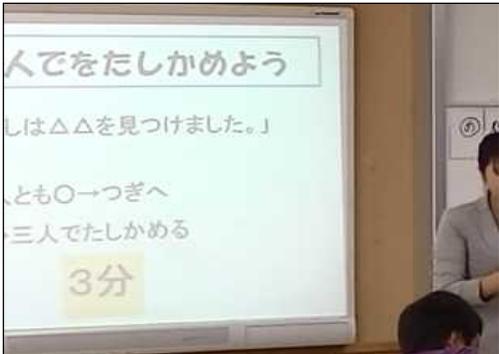
(2) 課題

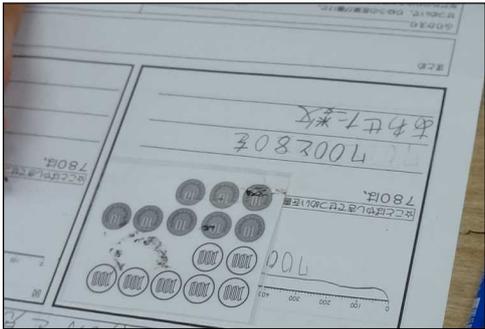
○授業者アンケートの感想で述べられているように、学級全体だけでなく、個別に配慮を要する児童の実態把握も大切であると感じた。個別に配慮を要する児童への支援については、児童の学習に対する苦手さだけでなく得意なことも把握して、支援を考えていく必要がある。

◇具体的な支援と取組の様子

環境の工夫	話す人の方に体を向けて聞くルールを継続して指導する
支援の意図	話を聞くルールを継続して指導することにより、落ち着いた学習環境をつくり、児童が学習しやすくなるようにする。
	<p>取組の様子</p> <p>1学期の授業では、教師の説明を聞き終わる前に活動を始めたり、私語をしたりする児童が見られた。そこで、聞くルールを決めて、継続的に指導をした。その結果、2学期の授業では、教師の説明や友達の発表を最後まで聞くことができるようになり、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組む児童の姿が見られた。2学期の授業参観者アンケートにも、「学級の児童が聞くルールを守ろうとする雰囲気であった」との記述があった。</p>

組立ての工夫	個人で調べる活動やペアや全体での話し合いなど、様々な学習活動を取り入れる
支援の意図	様々な学習活動を取り入れることで、児童の注意を持続させ、意欲的に学習に取り組ませる。
	<p>取組の様子</p> <p>個人で調べた後に、グループで伝え合い、全体に発表するという流れの学習活動であった。児童は、様々な学習活動に取り組んだことで、注意を持続させて学習を進めることができた。そのことを授業者は「活動の時間と発表の時間を設定することを意識した」と、授業者アンケートに記述している。児童アンケートには「友達が見つけた直角を教えてもらってまた調べた」と意欲的に学習したことの記述があった。また、授業参観者アンケートの記述には「聞く、話す、書く、調べるなどの様々な活動があり児童が飽きずに活動に参加できていた」とあった。様々な学習活動を取り入れたことが、児童の学習意欲の持続につながった。</p>

説明の工夫	視覚的な情報を提示しながら説明する
支援の意図	電子黒板に、学習の進め方や話合いのときの話型を提示し、視覚的な情報を用いることで、児童が活動内容を確認することができるようにする。
	<p>取組の様子</p> <p>1学期の授業では、教師の説明のときの声の大きさが小さくて聞こえにくかったり、児童の活動中に教師が説明や指示をしたりすることがあり、説明が児童に伝わらない場面があった。そこで、2学期の授業では、指示の内容を図や写真を使って電子黒板に提示するようになった。その結果、進んで活動する児童が多く見られた。授業参観者アンケートには、「電子黒板で視覚的にも示されていたことで児童が活動に参加できていた」と記述されていたことから、電子黒板での情報提示が、児童にとって活動に取り組みやすい支援になっていたと考える。</p>

個人差への配慮	自分の考えを書くことが難しい児童には、問題を解く手掛かりとなるヒントカードを渡す
支援の意図	児童の理解や注意の持続に合わせて補助教材を準備することで、児童の考えを整理しやすくする。
	<p>取組の様子</p> <p>自分の考えを書くことが苦手であったり、自分の考えに自信をもつことができなかつたりして、授業中に顔を伏せたり、何回も席を離れて質問に来たりする児童がいた。そこで、児童の実態に応じたヒントカードを用意したり、具体物を用いて分かりやすく説明したりした。その結果、児童は自分の考えをワークシートに記入することができた。児童アンケートの感想に「先生からヒントをもらって分かりやすくなった」と書かれていた。このことから、実態に応じたヒントカードを渡すことは、有効であったと考える。</p>